

当院の訪問STリハビリ利用者の傾向 ～訪問STに求められるニーズ～

国際医療福祉大学熱海病院 リハビリテーション室
言語聴覚士 渡邊美礼 清水利充

はじめに

- 当院の訪問リハビリ事業は2013年7月から開始。
熱海地域にサービスを提供し4年が経過した。
- 熱海の高齢化率は、45.5%であり全国平均の26.7%をはるかに超える値である
(H29年5月30日 静岡新聞より)
- 今回、当地域の訪問リハビリにおける背景・ニーズを把握し、今後の課題を検討する。

方法

2013年7月の訪問リハビリ開設時から
2017年5月の期間
訪問での言語聴覚療法を利用した者の
[年齢]、[性別]、[疾患]、
[言語聴覚療法における障害名]、
[介護度]、[主な支援内容]、[支援期間]
を集計し熱海地域での特徴を分析した。

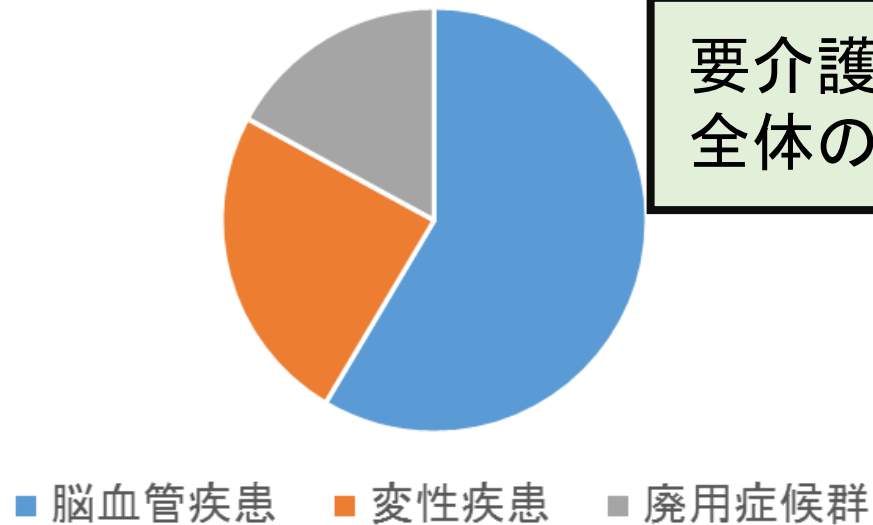
結果

2013年7月～2017年5月

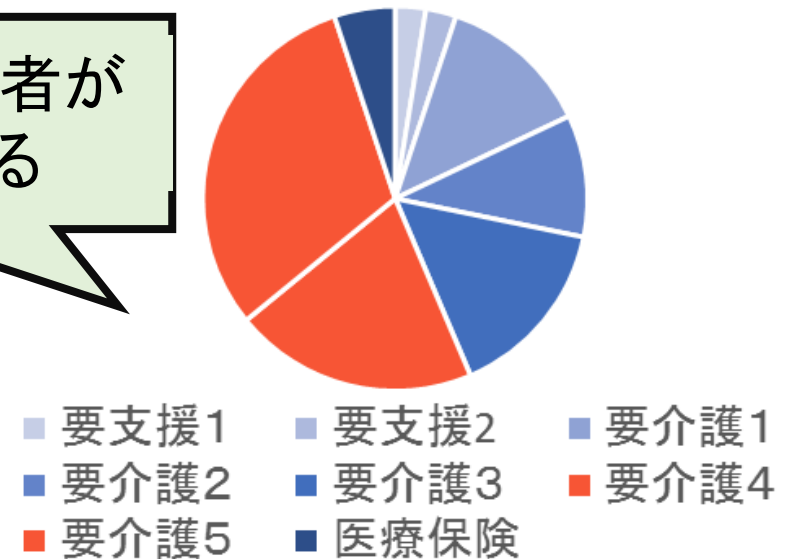
利用者総計: 39名 (男性: 21名、女性: 18名 平均年齢 75.4±13歳)

支援終了者: 24名、支援中の利用者: 15名

疾患別の割合



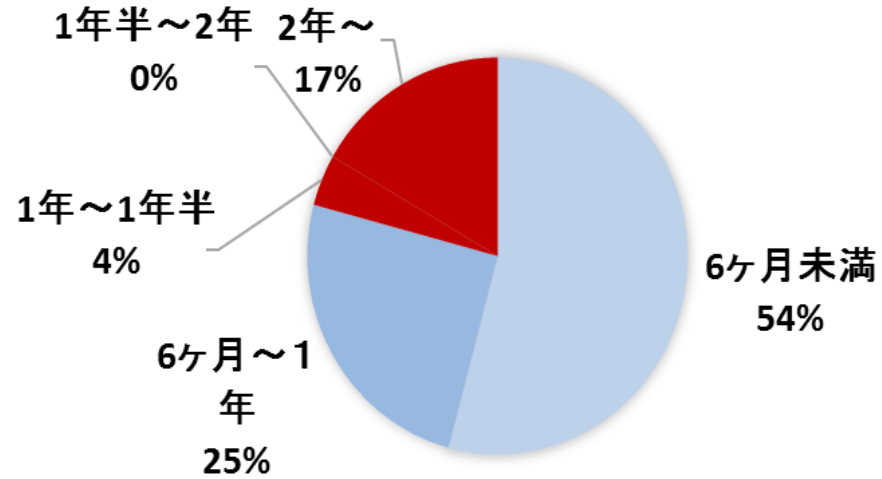
医療保険・介護保険の内訳



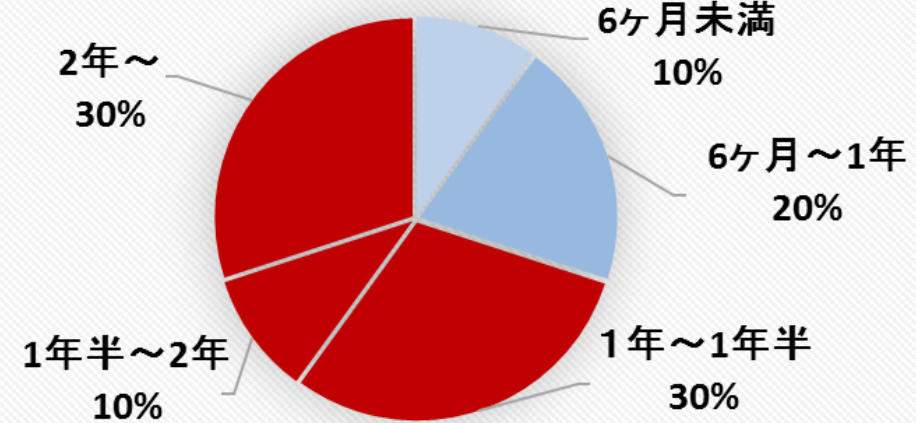
要介護4・5の利用者が
全体の5割を占める

支援期間(疾患の重複を含む)

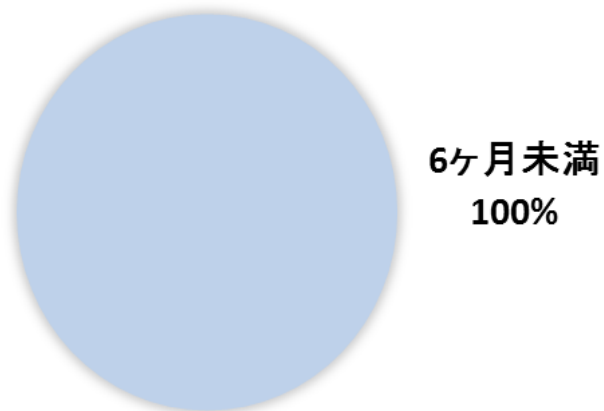
脳血管疾患の利用者(N=24)



変性疾患の利用者(N=10)



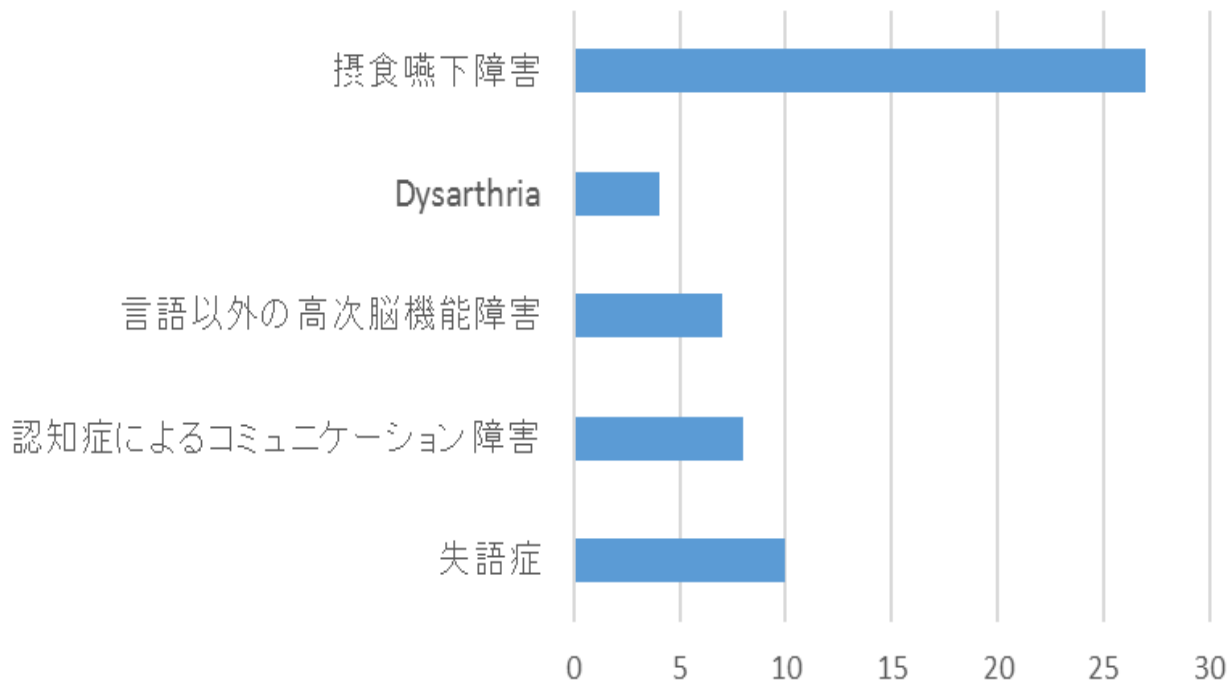
廃用症候群の利用者(N=7)



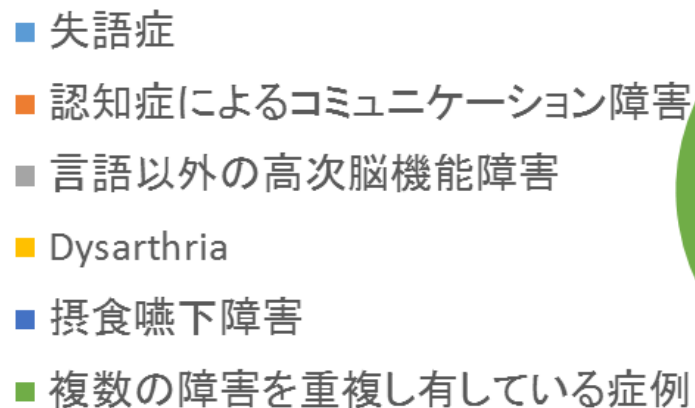
変性疾患の利用者では7割が1年以上の介入

STにおける障害別の利用者数

ST障害名別の症例数(重複あり)



障害別の割合



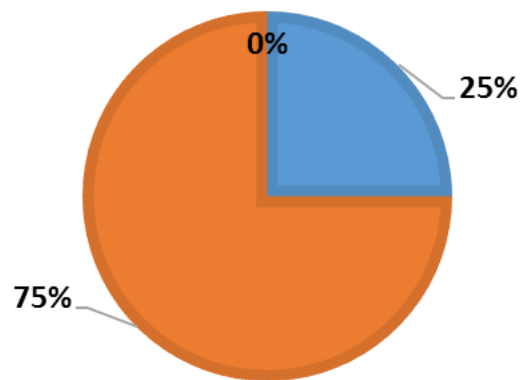
障害別の利用者数は
摂食嚥下障害が最も多い。

利用者総計の内、5割が複数の障害
を有している。

支援内容（疾患の重複を含む）

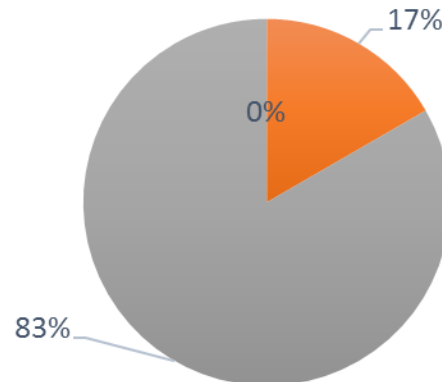
脳血管疾患の利用者（N=24）

■ 身体機能改善訓練 ■ 生活内の支援 ■ 進行に合わせた介入



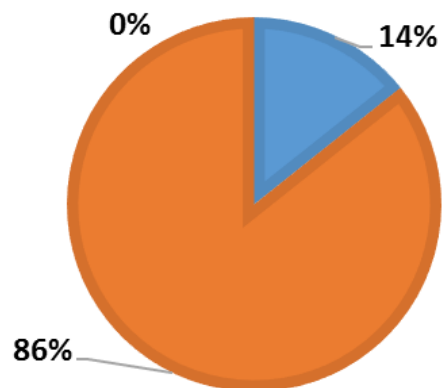
変性疾患の利用者（N=10）

■ 身体機能改善訓練 ■ 生活内の支援 ■ 進行に合わせた介入



廃用症候群の利用者（N=7）

■ 身体機能改善訓練 ■ 生活内の支援 ■ 進行に合わせた介入

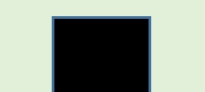


生活内の支援：コミュニケーションや摂食動作の代償手段の獲得、環境調整、家族指導等

※各利用者がそれぞれの主たる支援内容で集計。

考察1 熱海地域の特徴

熱海地域の特徴は、介護度の高く
長期的な在宅生活支援を要す変性疾患の利用者が
多いことが推測



現状の身体機能維持や生活内での汎化・介護者への指導等の支援
＋
時間経過に伴う利用者の症状の進行
家族の加齢・介護負担など
在宅生活の維持を図る必要

利用者の身体機能のみならず介護者の心身状態の変化に対して
対応できることが望まれる。

考察2 今後の課題

疾患によって、重きを置く支援内容は異なるが
いかなる疾患も生活内の支援は欠かせない。



生活内の支援では、利用者自身・家族の生活習慣や
住環境、リハビリに求めるニーズなど個人の特徴を
把握の元、医療的な知識の提供・介助方法の指導等
疾患に対するSTの専門的な支援が必要と考える。